

「つながり」大事に 学びを前へ

二エース専修

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- ② 科研究費101件採択 新規は25件
- ③ 20年度就職希望者就職率94・5%
- ④ 校友会第14代会長に桃野直樹氏
- ⑤ 校友会定時総会2年ぶりに開催
- ⑥ 対面でオープンキャンパス実施
- ⑦ 石巻専修大学

おことわり
マスク未着用写真は
撮影時のみ外しています

お知らせ

「二エース専修」の次回発行は
9月号(9月15日発行)です
最新情報は大学ホームページ、公式Twitter、Facebookよりご確認ください。

専修大学ホームページ
https://www.senshu-u.ac.jp/

通路を区切った生田キャンパス正門。入構時には検温を実施している(6月28日)



対談 佐々木学長×金子副学長

専修大学 コロナ禍の1年半

2020年の幕開けとほぼ同時に始まった新型コロナウイルス感染症の世界的流行。専修大学はその荒波の中、学生の学びを止めないため、さまざまな施策を講じてきた。佐々木重人学長と金子洋之副学長がコロナ禍の1年半を振り返り、今後の展望を語った。(6月18日対談)

◆21年度前期授業について

佐々木学長 「可能な限り対面授業を中心としつつ、教育効果を考慮してオンライン授業もミックスすること」を大前提とし、その上で専修大学の感染症対策はどうあるべきかを考えました。昨年度前期は、まったく顔を合わせずにオンライン授業が始まったため、学生、特に新生のフラストレーションはかなりのものでした。また教職員側も初めてのことであり、双方が大変なストレスを抱えていました。今年度はこの反省に立ち、対面授業とオンライン授業の計画を立てました。さまざまなデータを考慮して、各曜日・時限の入構者の上限を、生田キャンパスでは4000人、神田キャンパスでは2400人とすれば、安心して対面授業を受けられると試算しました。

しかし東京では、4月12日からまん延防止等重点措置、25日から緊急事態宣言が発令され、対面で設定していた授業も、できる範囲でオンラインに変更しました。これにより入構者の上限を生田3000人、神田1800人とさらに制限しました。5月28日に緊急事態宣言が再延長された際には外国語科目をオンライン化。学生の皆さんが協力し抑制的に行動してくれたおかげで、人の流れは、生田がピークで1700〜1800人、神田が600〜700人に抑えることができました。外国語科目については、マスクをしていては発音の指導などが難しいとの意見がありますので、教育効果の面から前期はオンラインで続けてください、と先生方にもお願いしています。

年度初めのオリエンテーションガイダンスは、通常は1週間のところ、今年度は倍の2週間かけて、感染症対策に十分な注意を払いながら対面で行いました。人間関係の構築を強く意識してガイダンス



2週間かけて行ったオリエンテーションガイダンス=4月2日、生田キャンパス

スを行ったことにより、学生同士のつながり、学生と教職員の関係が多少なりともでき、互いにスムーズにコミュニケーションがとれる環境でオンライン授業を進めることができました。

金子副学長 他大学は対面とオンラインの比率を何物という表現で示していましたが、それに対して本学は「1年次生が週何回大学に来られるか」「2年次生なら週何回」と考えて設定し、その結果として対面とオンラインの比率が何物になれればいいという判断を学長がされました。

1年次生から4年次生まで全員が毎日大学に来る必要は必ずしもありません。必要性が高いのは1年次生、そして2年次生で、就職活動がありゼミナールや卒業論が中心の4年次生はオンラインでもフレキシブルな対応が可能です。実情を把握し、それに合わせる形で計画を作ったというのは本学のユニークなところで、とても良い判断だったと思います。

佐々木学長 昨年度は「対面授業が始まって、一度も大学に行けない」という声がたくさんありました。その反省を踏まえた結果、1週間当たりの通学日数の目安について、1、2年次生は最低3日、3年次生は最低2日、4年次生は最低1日としました。(4・5面に続く)



ソーシャル・プロモーションに取り組んだゼミ生と神原教授(右)

商学部・神原理ゼミの学生たちが6月5日から7月3日まで、神田キャンパス10号館1階の「SEND A I K a f f e」で、大麦ストローを通じたソーシャル・プロモーションに挑戦した。

「ソーシャル・ビジネス(DAIRKAFEE)の社会的課題の解決に資する商品や商取引」を研究する神原ゼミは、これまでにSDGsに貢献する商品のプロモーションなどに取り組んできた。今回は、海洋プラスチックごみ問題に配慮し「大麦ストローのある暮らし」を提案。「SEN 繰り返し使えて環境に優しい大麦ストローの魅力」を多くの人に知ってもらう



商・神原ゼミ 大麦ストローカフェで提供

らうために、ポスターやショップカードなども作製。トレーに敷くシートはストローの持ち帰り用袋としても使えるよう工夫した。

プロジェクトのリーダーを務める中橋勇進さん(商3)は「授業で学んだマーケティングの知識を踏まえ、メンバーと協力を活かしてプロモーションのアイデアを練った。世の中の意識を少しでも持続的に変えていくことができればうれし



豪雨で被災された皆様へ

被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。専修大学は、被災された学生と保護者の方に対して、安心して学業が継続できるよう支援を行っております。下記の担当窓口にご相談ください。

生田学生生活課	☎044-911-1267
神田学生生活課	☎03-3265-6824
二部事務課	☎03-3265-8359
生田大学院事務課	☎044-911-1271
神田大学院事務課	☎03-3265-6568
法科大学院事務課	☎03-3265-6891

夏期JLIGプログラム スタート 初のオンライン開講



歓迎会に出席した受講生と日本人学生ら

日本語を学んでいる各国の学生を受け入れる「夏期日本語・日本事情(JLIC)プログラム」が6月17日から初めてオンラインで始まった。国際交流センター長が、[Join your JLIG Program]と激励した。

歓迎会は留学生をサポートする学生スタッフであるレジデント・アシスタント(RA)が企画・進行。アプリケーションを使ったお絵描きゲームや簡単な日本語での自己紹介などを通じて、交流を深めた。RAの松隈杏梨さん(文4)は「日本語学習をスタートさせるきっかけになったと思う。チャットやビデオ通話で、留学生とコミュニケーションを図っていきたい」と話した。

プログラム期間中には交流会を予定しており、キャンパス・アシスタント(CA)が参加できる。CAの登録は、国際交流センターのウェブページから。